

令和6年能登半島地震に対する本市の対応状況について (2月16日時点)

1月1日に石川県能登地方を震源地とする震度7の地震が発生しました。

お亡くなりになられた方々に心から哀悼の意を表しますとともに、ご遺族の皆様方をはじめすべての被災者の方々に心からお見舞い申し上げます。被災地の救援活動のため本市等で構成する柏原羽曳野藤井寺消防組合消防本部から署員を派遣するとともに、本市からも職員を派遣しました。

また、被災地にとって必要な支援が、受け入れやすく速やかに届くよう、国や大阪府と連携して情報共有し、1日も早く復旧・復興できますよう支援してまいります。

羽曳野市長 山入端 創



《支援物資の提供》

大阪府危機管理室からの要請を踏まえ、1月12日(金)以下の物資を提供しました。

- フロア用クッションマット1,920枚 ●肌着1,000枚(100枚×10ケース)
- ウェットティッシュ90セット

《職員の派遣について》

避難所運営業務(場所:輪島中学校)

- 1月20日~1月27日 7日間 2名
- 2月9日~2月16日 7日間 2名

主な業務: 物資の補充、避難所掃除、食事配膳、感染者などの支援、ゴミ回収、トイレ清掃、雪かき、その他



給水活動

- 2月10日~2月14日 5日間 2名 給水活動(場所:石川県鳳珠郡穴水町)
- 2月22日~2月26日 5日間 2名 給水活動(場所:石川県鳳珠郡穴水町)

主な業務: 福祉施設・介護施設等の受水槽および避難所等への給水活動



《派遣職員レポート》 (1月20日~1月27日)

私たちは大阪府第4次現地派遣職員として、石川県輪島市にある輪島中学校で避難所運営支援を行いました。

輪島市内は、テレビなどで映し出される被災箇所だけでなく、あたり一面すべての場所が被災地であることを痛切に感じました。応援部隊である私たちがさえ絶望感を覚える状況の中、被災者のみなさんはどんな思いなのだろうかとさらに胸が痛くなりました。

災害発生から約3週間経過していましたが、輪島中学校には約450名(派遣当時の避難者数)の方が避難されており、輪島市内の避難所で一番多くの方が避難生活をされていました。平日には仕事や家の片づけに行かれる方も多く、避難所は高齢者の方が中心となっています。避難所内では、簡易テントや段ボール間仕切りなどで一定プライバシーが守られていますが、イビキや他人の話し声などのどうしようもない部分もあり、それぞれが気を使いながら生活をされているように感じました。私たちは、そのような環境のもと出来るだけ被災者の方に寄り添えるよう努めました。また、避難所で作業をしていると、避難者の方から『ありがとう』などの感謝の声もよくいただきました。

この避難所では、避難所の事は出来るだけ避難者の方で行っていくという取り組みをされていました。避難所の方に話を伺うと『昨年5月にも能登半島で大きな地震がありました。その際、個人や地域の事前の準備が必要だと思い準備していました』とのことでした。この話を聞き、あらためて個人や地域での災害に対する事前の備えが重要であると実感しました。

《募金箱を設置いたしました》

令和6年能登半島地震災害により、被害を受けている方々を支援するため、市内公共施設に募金箱を設置しました。

義援金につきましては、社会福祉協議会から日本赤十字社を通じて被災地へ送られます。皆さまのご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

【募金箱設置場所】

1. 羽曳野市役所 本館1階 総合案内カウンター
2. 羽曳野市役所 別館1階 保健福祉政策課(8番窓口)
3. 羽曳野市役所 別館2階 羽曳野市社会福祉協議会(日赤羽曳野市地区)
4. 羽曳野市役所 支所
5. LIC はびきの
6. はびきのコロシアム
7. 陵南の森総合センター
8. 市民会館
9. MOMOプラザ(羽曳が丘コミュニティセンター)
10. 丹治はやプラザ(丹比コミュニティセンター)
11. 石川プラザ(東部コミュニティセンター)
12. 大阪はびきの観光局

※1.~4. は、土・日・祝日を除く、平日午前9時から午後5時30分まで

※5.~11. は、施設の開館時間 ※12. は、木曜日を除く、午前9時から午後5時まで

※領収書の発行はできません。領収書が必要な方は、羽曳野市社会福祉協議会(日赤羽曳野市地区)までお越しください。

【受付期間】 令和6年12月27日まで義援金受付口座等については日本赤十字社のホームページをご覧ください。



《今後起こりうる災害に備えて》

災害による被害をできるだけ少なくするためには、自分の命は自分で守る「自助」、そして、ご近所の方々などと協力して地域を守る「共助」の取り組みが非常に重要です。

取り組みの一例として、「自助」では、家の安全対策をする、水や食料の備蓄をする、避難場所や避難経路の確認をしておく、家族や友人などと事前に話し合い安否確認の方法を決めておく、ペットへの備えをしておく等、「共助」では、配慮を必要とする方々の把握や支援体制づくりをする、地域で資機材等を備蓄する、防災訓練をする等があります。

ご自身、そしてご家族はじめ近い方々、更に地域のみなさまの命を守るための備えを始めてください。よろしくお願いいたします。

《災害に備えて取り組んでいます》

大規模な災害が発生した場合、交通網の遮断等により、物資が不足することが考えられますので、羽曳野市ではいつ起きるか分からない災害に向けて備蓄物資を防災倉庫や学校施設等に備え、公園等の施設を市民の方に避難していただける場所として準備を進めています。

また、災害対応能力向上のため、職員に対してもチェーンソーやロープ掛け、土のう作成、避難所運営のシミュレーションを実施し、常日頃から災害に備えています。



<防災トイレ>



<防災シェルター>



<ロープを使用して訓練>



<土のう積み方訓練>



<土のう作成>



<照明灯(災害時は電源が取れる)>



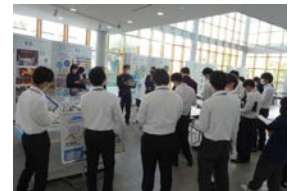
<防災倉庫>



<備蓄倉庫>



<チェーンソー使用訓練>



<災害対応能力向上研修>

～ダルビッシュ有氏、能登半島地震被災地のために寄附～

ダルビッシュ有氏が、「令和6年能登半島地震大阪府義援金」に5,000万円の寄附をされました。

ダルビッシュ有氏(羽曳野市名誉市民)から、能登半島地震の被災者の方を支援したいと、お母さまの郁代様、弟の賢太様から大阪府の吉村知事に目録の贈呈が行われ、吉村知事は「お預かりした義援金は全額、被災県にお気持ちと共に必ず届けさせていただきます。」と感謝の言葉を述べられました。

ダルビッシュ有氏からは下記のメッセージを頂戴しております。

『令和6年能登半島地震でお亡くなりになられた方のご冥福をお祈りするとともに、ご遺族をはじめすべての被災者の方に心よりお見舞い申し上げます。1日も早い復旧・復興を心から願っています。』



羽曳野市公式LINE登録してください!!

災害時みなさまのようにして情報を入手していますか?

ラジオなどは被災された場所を広く放送されていますが、羽曳野市の詳しい情報はありません。

そこで、羽曳野市公式LINEにお友達登録していただくだけで、災害時は災害情報や避難所などの情報を配信しています。

ぜひ登録してください。登録に関しては、P5をご覧ください。



義援金詐欺にご注意ください!!

羽曳野市の職員が皆様に対して、訪問・電話・メール・ファクス等で義援金の振込をお願いすることはありません。

過去の震災時には、福祉団体や公的機関などを名乗り、義援金(ごえんきん)をだまし取ろうとする義援金詐欺と疑われる事例の情報が寄せられていました。募っている団体等の活動状況や用途をよく確認し、納得した上で義援金を寄付しましょう。

能登半島地震に便乗した耐震に関わる訪問営業が発生しています!ご注意ください!

羽曳野市内では「羽曳野市から委託された」という災害に便乗した耐震診断や改修に関わる訪問営業が発生しています。

「羽曳野市から委託され、無料で耐震診断を行っている」、「補助金が使える」といった【市役所等】との連携を語る営業や、「代わりに申込みしておくので契約書にサインを」といった営業にはご注意ください。

羽曳野市は耐震診断等の委託を行っておりません。羽曳野市の補助金をご利用いただくには、必ず契約前に市役所への相談が必要です。

また、会社名を名乗らない場合もご注意ください。